



創立152年

わにっこり

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和7年 夏休み号

児童数377名 文責 澤村幸夫



本物に触れる

夏の風物詩として知られるグラジオラスが校庭に咲いています。赤や黄色、紫、そして右の写真のピンクの鮮やかさは、多くの人々を魅了します。特にピンクのグラジオラスは、愛と努力の象徴として人気があります。調べてみると、歴史的背景も興味深いものがあります。古代ローマでは、剣闘士の勝利を祝うためにグラジオラスが使われ、「剣の花」として知られていました。このことから、「勝利」や「情熱」といった花言葉が生まれたそうです。グラジオラスは切り花としても長く楽しめます。室内に飾ると室内が一気に華やかになります。花言葉も多彩で、色によって異なる意味を持つのもグラジオラスの特徴です。ピンクのグラジオラスは「たゆまぬ努力」や「ひたむきな愛」を象徴します。これらの花言葉を知ること、花を贈るときのメッセージ性が一層深まります。



学校のカクレクマノミ
本文との関連はありません。

さて、子どもたちが楽しみにしている44日間の夏休みが始まります。今年はカレンダーの関係で44日間となり、「44日もあるのかあ」と嘆く保護者の顔がうかびます。保護者にとっては、夏休みとは言え、日常はあまり変わりませんが、子どもたちにとっては、とても大事な期間となります。

子どもたちに豊かな体験をさせることは、子どもの豊かな感情を育みます。ただ、豊かな体験とは、旅行に出かけるとか、遊びに連れていくことばかりを指すではありません。日常の中にある、時間がないと普段できない体験です。たっぷり読書をすることや動植物の飼育、自由研究や創作活動などをイメージしています。

その豊かな体験のうちの1つが、「本物に触れる」ことです。本

物に触れるときの子どもたちの目の輝きは違います。いくら写真や資料、動画で見て分かったつもりでいても、本物にはかないません。その時に大切なことは、大人がその本物の価値を丁寧に子どもたちに教え、その素晴らしさを感じ取る目を養うことです。学校においても、教室の学習では、「疑似体験」が多くなりますが、教室を離れて行う活動では、本物に触れる「実体験」をできるだけ入れるようにしています。校外学習や実験・実習を大切にしています。

この夏休み、親子でゆっくり、じっくり普段できないことに挑戦してみてはいかがでしょうか。



学校のディスカス
本文との関連はありません。

1年生 おおきなかぶ 音読発表会

国語の学習では、授業や宿題で練習してきた「おおきなかぶ」の音読を各クラスで発表しました。「うんとこしょ、どっこいしょ。」の読み方を工夫したり、声を合わせて楽しく読んだり、各グループで話し合い、工夫して読む姿が見られました。今後も新しいお話と出会いながら、読む力をつけてほしいと思います。



2年生 プチなわとび大会

2年生は、体育の学習で「プチなわとび大会」をしました。たくさん汗を流しながら一生懸命跳びました。冬のなわとび大会で、今回の記録を超えることができるようにこれから練習を重ねていきます。



3年生 風やゴムのはたらき

3年生では「比べる」をキーワードに学習しています。ゴムの長さや風の強さを変えて実験をしました。



4年生 コリントゲーム



4年生の図工では、「コリントゲーム」を制作しました。板をノコギリで切って土台を作り、テープで迷路を描き、くぎをかなづちで打ってルートを作りました。うまくビー玉がころがるように工夫しながら、オリジナル作品に仕上げました。

5年生 着衣泳とライフジャケット



5年生は、夏休みを目前に、水難事故に遭わないように、服を着たまま水に入るとどうなるかを体験しました。また、ライフジャケットの正しい付け方や、ライフジャケットを着て水に浮くことを経験しました。水難事故に遭わない楽しい夏休みにしてください。

6年生 防災学習

6年生の防災学習が始まりました。この1年間、防災について学んでいきます。この日は、ゲストティーチャーに来校いただき、身近なもので作る防災グッズ作りを体験しました。新聞紙でお皿を作ったり、スリッパを作ったりしました。いざという時に役立つアイテムです。



2025
わにっこギャラリ

期間 8月1日(金)～8月27日(水)
時間 9時30分～18時
*最終日は15時まで
場所 和邇平和堂2F

和邇小学校の児童の作品を展示しています
どうぞお立ち寄りください

**ここを
クリック**

和邇小学校の
ホームページ

和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校だよりのバックナンバーは、[ここ](#)をクリックしてください。「校長室より」は[ここ](#)をクリックしてください。



第5弾 「非認知能力」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。未来をたくましく生

きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思います。

第5弾は、「非認知能力」です。これまでからも、この学校だより「わにっこり」で何度か取り上げてきました。しかし、「非認知能力」は大事なものは分かりましたが、どうやって育てるのですか?と聞かれることが多くなりました。そもそも非認知能力は、大人が育てるものでなく、子ども自身が獲得して伸ばしていく能力です。その主体はあくまでも子どもで、大人ができるのは、伸ばす素地を整えたり、きっかけを与えたりすることです。



学校のナンヨウハギ
本文との関連はありません。

非認知能力とは、「子どもの中にある“心の力”」を指します。いろいろな表現が使われていますが、心や気持ちなど「内面的な能力」ととらえるとわかりやすいと思います。小学生時代に身に付けたいと思う非認知能力を3つに絞ると、以下の3つになります。

1つ目は「つながる力」です。コミュニケーション力や共感、協調性のことです。他の人の意見を尊重したり共感したりする力で、他者との関係を良好に築くときに発揮する大切なスキルです。

2つ目は「がまんする力」です。忍耐力や回復力（レジリエンス）のことです。ネガティブなことがあった時に、下がった自分の気持ちをもとに戻したり、気分を切り替えたりするのに必要な力です。

3つ目は「やる気」です。意欲や向上心、自信や自尊感情のことです。つまり、今の自分を上げる力、成長させる力、「よし、やるぞ!」と意気込む力のことで、主体的に生きる上で大切な力です。とはいえ、「自信」が前面に出すぎると「過信」になりますので、自分の力をうまく使いこなせるようになることが必要だと思います。

では、非認知能力を使いこなせるようになるために、大人は何ができるのでしょうか。大人自身も、たいへんな仕事を最後までやり遂げたり、はじめて会う人と打ち解けたりして、日常的に非認知能力を使いこなしています。子どもたちには、「成長とともに、その場面で必要な力を使い分けたり、使いこなしたりすること」が目標となります。小学生時代は、大人が子どもの状況に最適な声かけや接し方を心がけることで、子どもは非認知能力を意識するようになり、活用しやすくなります。たとえば、なにかが成功した時に「なんとなくできた」で終わらせるのではなく「どうやってできたの?」と聞いてみます。そうすると子どもは「みんなで協力したから完成できた」というように、非認知能力を実感できるようになります。これを繰り返し積み重ねて、子どもは少しずつ非認知能力を使いこなせるようになっていきます。



学校のチンアナゴ
本文との関連はありません。

夏休みには、普段と違って、親子の会話が増えることも想定できます。子どもの行動や感情をコントロールするのではなく、うまく進んだことに対して「どうしたら、そんなふうにできたの?」と問いかけることをおすすめします。

夏休みには、普段と違って、親子の会話が増えることも想定できます。子どもの行動や感情をコントロールするのではなく、うまく進んだことに対して「どうしたら、そんなふうにできたの?」と問いかけることをおすすめします。

ディスカスの産卵

ここを
クリック

期間限定 7/18~9/30

学校のディスカスのペアが産卵し、孵化しました。その様子を動画にまとめましたので、ぜひご覧ください。